

# 東奥日報

2017年(平成29年)7月4日 火曜日 (12)

## 緊急車両 もっと安全、迅速に

# 八工大の3人優秀賞



八戸工業大学(長谷川明学長)の工学部機械情報技術学科自動車工学コースの4年生3人が考案した「緊急車両の走行支援システム」が「自動車技術独創アイデアコンテスト」(公益社団法人・自動車技術会東北支部主催)で優秀賞に輝いた。走行中の救急車など緊急車両と一般車両の位置関係をスマートフォンやカーナビで知らせるというアイデア。学生たちは「不測の衝突事故を防ぐのに役立つはず。実用化に近づきたい」と話している。(岩村史生)

3人は自動車工学コース責任者・浅川拓克講師の研究室に属する寺井優大さん(21)、浦田滉平さん(22)、齋藤詠一さん(21)。同コンテストの大学・高専の部には東北各県の計24チームが参加。八工大チームは1次審査(書類)を通過し、10日に仙台市で行われた本選考会に臨み、5チーム中で最優秀1チームに次ぐ優秀賞(2チーム)に選ばれた。提案したのは、走行中の緊急車両と一般車両が接近した際、それぞれの車両が発信する位置情報をキャッチして車載ディスプレイやカーナビ、スマートフォンアプリ上の地図に位置を表示し、アナウンスを流す

自動車技術アイデアコンテストで優秀賞に輝いた八工大チームの(左から)寺井さん、齋藤さん、浦田さんと、研究室の浅川講師

### 自動車技術会 普及目指せるシステム案 東北コンテスト

などして注意を促すというアイデア。交通量の多い交差点では緊急車両が走っている方向がサイレン音だけでは分かりにくく、衝突事故も発生している状況を踏まえ、安全、迅速に走行できる仕組みを整えたいとの思いから発案した。メンバーによると、緊急車両のいる方向や距離を表示する機能は、既に一部の車両に導入されているが、広く普及するには至っていない。八工大チームの提案は、既存の車載装備やスマートフォンを使う「汎用性の高いシステム」(浅川講師)で実用化の可能性が広がるアイデアという。4月から多くの時間を企画や資料作成、発表準備に費やしてきた3人は「コンテストで得られた経験を就職先で生かす」、「自動運転化が進めば不可欠なシステムになる。課題を整理し実用化に近づけたい」と話した。浅川講師は「社会性の高い提案であり、課題や解決策も明確に提示できた」と学生らをたたえた。

※「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」